

I. 公害の現状

私たちの住んでいる四日市は、ここ数年の間に石油コンビナートの町として飛躍的な発展をした。

この繁栄をもたらした落とし子が、いまや四日市を全国的に有名にした公害である。

四日市の公害はどんなものか、ご存じない方が多いのではなかろうか。

四日市の公害は、主として亜硫酸ガスによる人体への影響であるが、この他に頭が痛くなり、吐き気をもよおし、目から涙が出て止まらない、といった影響を与えるくさい臭気も多く、この臭気のひどいときは、いわゆる「黄色いマスク」をしても、教室内の空気清浄機をフル運転しても堪えられないので、郊外へ集団避難する、といった処置もとっている。しかし恐ろしいのは何とんでも亜硫酸ガスである。

これは、普通の状態(3ppm以下)では、においがしないので、平気で吸っているが、知らず知らずのうちに体をむしばんでいるのである。

II. 児童の身体への影響

当校の校医である三重県立大学付属塩浜病院の小児科部長児玉武伊知博士が、今年の小児科学会で発表した「公害が児童の身体に与えた影響」の結論として、次のようにまとめられている。

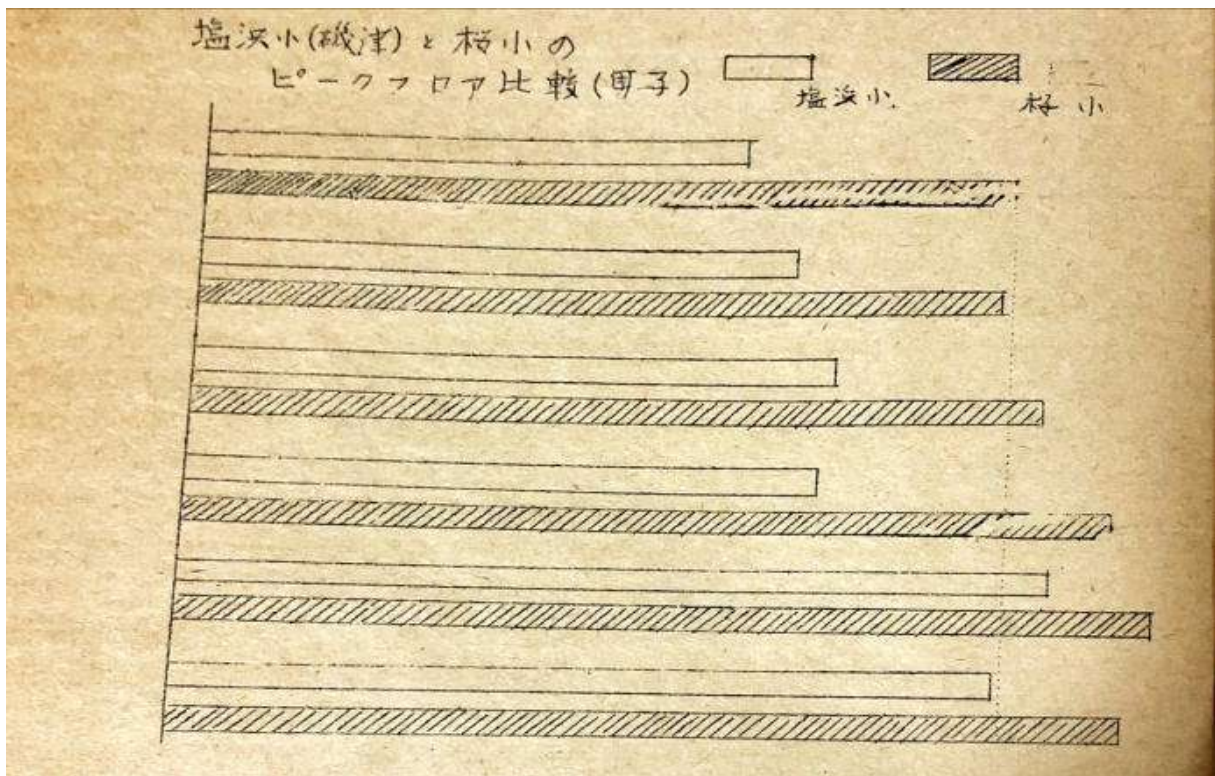
現在のところでは、大気汚染によって汚染地区の学童において

- ① 臨床的に慢性上下気道疾患が多い。
- ② 肺機能上では閉塞性障害が多い。
- ③ 発育上身長の伸びの抑制がうかがわれる。

ことがあきらかとなった。

これはまことに恐るべきことである。ちなみに、四日市における非公害地の桜小学校の児童と、当校の児童を Peak Flow Pate (瞬間最大呼気流量) を検査してみると次のような結果になっている。





上の図でわかるように、桜小の1年男子と当校磯津地区の6年生男子とのピークフロアがほとんど同じであって、気道への障害という形になって大気汚染の影響があらわれているのである。

これをこのまま放って置いては、児童の健康上、否生命保全の上でまことに憂うべきこととなる。何とか学校教育として打つべき手はないだろうか、ということを考えて学者、医者、関係者の方々のご指導も仰いで、職員と研究協議して立案し、実践しているのが、次の健康教育である。

Ⅲ. 健康教育の概要

1. 保健の学習

保健のカリキュラムを作って、毎月1時間、保健についての知識習得を目的とした学習指導をしている。

2. 保健の実践

特に、公害地として重点を置いているのが次の実践指導である。

・ 乾布まさつ

身体の皮膚、したがってその下部組織である粘膜をまさつすることを通して上下気道の粘膜（これがSO₂によってはれて、呼気の流れを悪くしているのである）を強くしていくのがねらいである。

学校教員の作詞作曲による乾布まさつのレコードによって毎日始業前にやっている。

・ うがい

空気中の微細なほこりはSO₂といっしょになって肺胞にまで達するが、気体のままのSO₂は上気道の入り口の粘膜に付着する。これを吐

き出すことが大切で、このためにうがいを 1 日最低 6 回するようにしている。

- ・保健の習慣を要請するために児童会の生活委員会が目標を示して実行させ、はげみ表つけさせている。

3. 給食の指導

- ・好き嫌いをなくし、よくかむ指導

積極的に体を作ることに、徹底的な給食指導をしている。

- ・肝油の服用

のどの粘膜の保護と強化には、ビタミン A が一番よい。これの基準量はなかなか食品からとれないので、一番安価で子どもの好き嫌いのない肝油を給食のたびごとに与えている。

公害地での影響を少なくする方法として子どもに喜ばれ、かつ手軽く実施できる最もよいやり方であると考えている。

4. 体育指導

- ・業間体育

公害地では、1 日のうちで朝と夕方が一番空気が汚染されている（0.1PPM～0.2PPM）ので、いわゆる朝会をやめて、2 時間目と 3 時間目の業間 20 分間に全校体育を実施している。内容は積極的、基礎的、リクレーショニックにしてバラエティーに富んだものになっている。

- ・対公害体育

対公害体育カリキュラムを作って、積極的に体を鍛えることにしている。特に、鉄棒、跳び箱、マット、水泳、角力を重視している。

更に、体育の内容を充実するために、補助教具の開発と指導技術の研修に努めている。

5. 健康の管理

- ・ピークフロア、バイタラーの実施をして、SO₂ の影響を調査している。

- ・健康相談

ピークフロアの悪い子を抽出し、全校約 100 名の者について、毎月 1 回親にも来てもらい児玉博士によって懇切な健康相談を実施している。

6. 防害施設の管理

- ・空気清浄器を 36 個設置

- ・健康マスク（黄色いマスク）全員配用

- ・清掃の徹底

公害地ではほこりは厳禁であるので、散水装置を運動場につけるとともに、1 日 3 回、朝掃除、昼掃除、帰り掃除を励行して、ほこりの絶滅をはかっている。

7. 上層環境の経営

- ・防害植樹

校舎の工場側に、3 列にわたって公害に強くて、工場からの汚染空気を防ぐ植物を植えた。

- ・緑化栽培

グリーンセンターが防害の一助になり、ほこりを防ぐので、芝生を一面に植えた。

- ・花壇経営

四季花を絶やさないために、また公害地の殺伐とした気分を和らげて上層を豊かにするために、校内いたる所に花壇を作っている。

- ・さし木とその移植

全校児童にまさきとさんごじゅを1人2本ずつさし木させ、発根してから1本を学校へ1本を家庭に移植させた。

8. 夏休みの対公害経営

- ・積極的鍛錬として

水泳 3年以上全員

登山 5年生全員

キャンプ 6年生全員

- ・養護的経営として

林間学校 3年生以上の健康相談を受けた者有志

- ・家庭の食生活の向上のため

公害地向きの調理講習会を開き、その後で公害地向きの献立コンクールを実施した。

IV. 公害用講堂の建設

大気汚染の極めてひどいときに、集団避難できる場所として、更に平素空気のきれいな所で十分に体育のできる場所としての対公害用講堂がまさに出来ようとしている。

V. さいごに

いろいろしている中で顕著なものを上述したが、効果は徐々に上がりつつあるように、いろいろの面でうかがわれる。

困難なことは多いが、公害地の子ども健康を守るために、今後も真剣に努力していくつもりである。